

復原工事前の本堂の姿

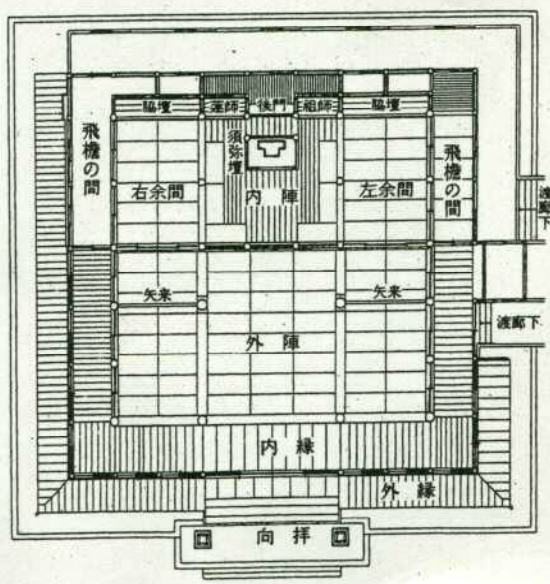


【本堂】

慶安2(1649)年に建築された本堂が老朽化したため、数度の修理を経て文政7(1824)年に再建しています。修理前の江戸初期の旧本堂は、彫刻は内部の欄間のみの住宅風の建物だったと考えられておりますが、修理後の現在の本堂は旧本堂より一回り大きく、内外に彫物装飾を施し仏堂化が進んでいます。山門、庫裏とともに近世末期の建築が残っているのは貴重です。



長念寺本堂の構成（工事前の状況）



【本堂 内部】

内部は、前面に内縁と信徒のための外陣、矢来内(やらいうち)をとり、その奥を一段高くし中央から左右に内陣、余間、飛檐(ひえん)の間を並べた真宗特有の構成です。内陣及び左右余間の正面は真宗本堂の最も意匠を凝らす所であり、巻障子や彫刻欄間を金色に仕上げ、組物も彩色するなど装飾を凝らしており、外陣と矢来上部に架け渡した大虹梁(だいこうりょう)となれば本堂のみどころです。

※矢来内→僧侶が仏事を行う場の区画。現在は取り外している。

※虹梁→見えるように使う梁(屋根などの重さを支えるため、柱上に渡される横木)。



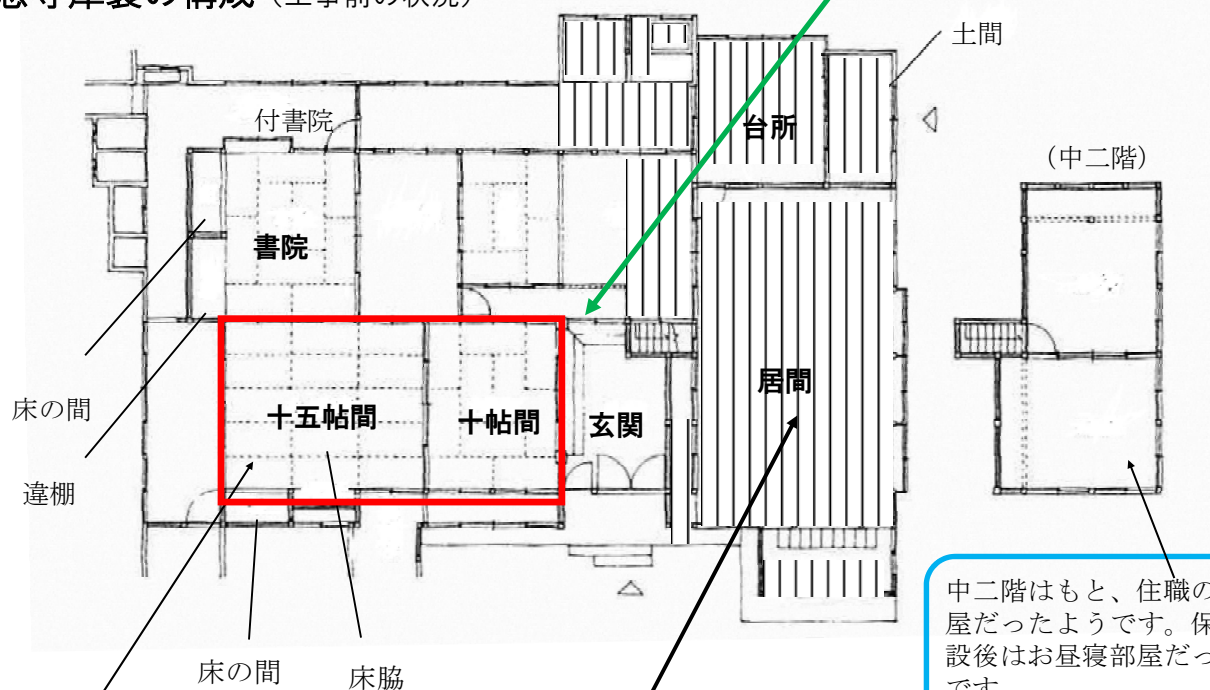
復原工事前の庫裏の姿

もとはお寺の中で、食事を調える建物のこと。住職の住居を指して言うことが多い。庫裡と表わすこともあります。

庫裏は住居のため、生活様式の変化とともに建て替えられることが多く、江戸時代に建てられた現存する庫裏はとても貴重です。

What's 庫裏

長念寺庫裏の構成（工事前の状況）



十五帖間と十帖間には、表座敷としてのまとまりがあります。

居間は、戦後、保育園の園舎として使うために、大きな柱のない部屋へと大胆に改造されています。縦線部分が大きな改造がされている部分です。

【長念寺沿革】

長念寺は大永2(1522)年に法専坊によって開かれました。当初は真言宗でしたが、その後浄土真宗に改宗されており、元禄14(1701)年には、西本願寺の直末の寺院となっています。

【庫裏】

長念寺庫裏は、19世紀中頃の建築と考えられ、江戸時代の寺院庫裏遺構として貴重なものです。

庫裏の正面に設けた玄関や、床の間、違棚、付書院を付けた10帖敷の書院が特徴的です。

居間、台所、土間などは後世に生活空間としての改造がみられますが、基本的な構造は建築当初の様子をよくとどめています。

玄関まわりの檼の大黒柱や差鴨居の太さが見どころの一つ！

中二階はもと、住職の隠居部屋だったようです。保育園開設後はお昼寝部屋だったそうです。



《文化財建造物の保存修理》

- ◎建造物である以上、風雨による風蝕や腐朽を避けることはできません。
→建造物の耐久度によって周期的に修理を行う必要性があります。

【表】 建造物や材料の種類別の修理周期の目安

建造物の種別	根本修理	屋根工事・部分工事
大規模寺院建築	1回／ 100～300年	1回／30～40年
地方寺院建築 (銅板・瓦葺屋根)	1回／200年	1回／50～60年
寺院庫裏 (植物性屋根)	1回／150年	1回／25～30年
古民家 (植物性屋根)	1回／100年	1回／25～30年

【本堂の主な履歴】

- 1649 建築
1824 数度の修理の後**再建**
1959 入母屋造・銅板瓦棒葺に改修
2015～ **修理・復原**



【庫裏の主な履歴】

- 19C半ば 完成
1923 **関東大震災被災修復**
1951 保育園開設のため南側を改造
茅葺上に亜鉛鉄板を葺く
2014 **半解体修理・復原**

【復原前の庫裏】・幕末頃の建築

- ・建物の歪み・傾きがひどい
- ・茅葺屋根を亜鉛鉄板で覆う
- ・耐震性に課題あり

【平成26年度 工事】

- ◎長年の使用に伴う改変部分を半解体により調査
①コンクリート基礎上に、曳家(ひきや)にて移設
②半解体し当初の姿を確認
③復原計画を策定

【平成27～28年 復原工事】

- ①建物基礎部分・屋根裏に耐震補強を行う
- ②正面の欄間・柱間の装飾のクリーニング及び修理、建具の補修を行う
- ③宮殿・須弥壇の保存修理を行う

**長念寺の入口に
注目！**

【平成27年 復原工事】

- ◎歴代の使用に伴い改変されている部分を昭和20年代頃の姿に復原
- ①復原計画に基づく工事
 - ②建物の歪み解消、建物基礎部分に補強を行う
 - ③建物の骨格となる壁、屋根裏に補強を行う
 - ④屋根を亜鉛鉄板(茅葺(かやぶき))から銅板に葺き替え
 - ⑤建具の補修

【山門】棟札によると、嘉永7(1854)年に上棟された建物で、大工棟梁は登戸の小林弥太郎信久、脇棟梁は小林佐吉作清、彫工は江戸深川の後藤弥太郎氏前。間口11尺、奥行き10.5尺の四脚門で切妻造・本瓦葺。総檜の木地仕上げで組物の間の壁面を彫刻装飾で埋めているほか、部材にも彫刻を施すなど鑿の切れのよい彫刻が特徴です。本堂と山門は庫裏とともに、平成2(1991)年に川崎市重要歴史記念物に指定されている貴重な建造物です。 ※切妻造→本を開いて伏せたような形式の屋根。

長念寺の文化財（絵画・彫刻編）

- 市重要歴史記念物 もくぞうあみだによらいりゅうぞう 木造阿弥陀如来立像〔室町時代 天文3（1534）年〕

（今回は見学コース内にはありません。）

右手を胸の前にかかげ、左手は自然におろした来迎印（らいごういん）を結ぶ立像で、玉眼（ぎょくがん）、寄木造。中国宋元代の影響が強く表されています。胎内に銘文があり、作者・造立年代が分かっている貴重な作例です。



【墨書銘文】 作者日光住道仙正蓮／梯子定順本願乗蓮坊／妙永于時天文三年甲午九月吉日

- 市重要歴史記念物 けんぽんちやくしよく しゅうげつぜんにがぞう 絹本着色 秀月禅尼画像〔江戸時代 慶安3（1650）年〕

（非公開）

菅の領主・旗本の中根壱岐守正朝（まさとも）の母の秀月禅尼は、長念寺に篤い信仰を寄せ、禅尼の没後、長念寺は中根家から本堂や庫裏、田畑などの寄進をうけています。

現在の本堂は中根家寄進の本堂が老朽化したために建て替えられたものであることが、お寺に残る文書から分かっています。

この肖像画は、禅尼の3回忌に子の平十郎の発願で描かれた画像で、東本願寺の法主（ほっす）の花押（かおう）のある由緒紙が付属しています。



- 神奈川県指定重要文化財 紙本着色 鳥合わせ図屏風（六曲一双）（非公開）



スタンプ

「紙本着色」とは、紙に彩色されている絵画という意味です。紙本着色と同じ意味です！

ココに盆栽（盆山）が描かれていることに注目！盆栽が描かれている屏風は珍しいです。

